

一般選抜 前期 B

# 試験問題

# 国語

## 【注意事項】

- 一、試験開始の合図があるまで、この表紙を表にして、この試験問題冊子を開かないでください。
- 二、試験問題冊子は、八ページ（この表紙は含めません）あります。
- 三、試験終了後、解答用紙は、すべて回収しますので持ち帰らないでください。
- 四、試験終了後、この試験問題冊子は、持ち帰ることができます。
- 五、問題の内容に関する質問にはお答えできません。

【一】 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

日本のカシ(檜)の仲間には、シラカシ(白檜)、アラカシ(粗檜)、ウラジログシ(裏白檜)、アカガシ(赤檜)などがある。どれもドングリ(堅果)がなる常緑広葉樹である。ウラジログシは、「裏白檜」と書くが、葉の裏が白いことからついた名である。葉の裏が白いのは、葉の裏面に X されたロウ(蠟)物質のためで、葉の裏をライターの火であぶってみると、ロウが融けてすすと白みが消える。ロウ物質は、葉から水分が蒸発するのを防いだり、害虫や病原菌を防ぐ効果があるという。

カシ類は、葉の形や生育場所に違いがあるのだが、「檜」という字が表すように、材が堅いことは共通する。ほかのカシ類と同様に、ウラジログシの材は堅い。(ア)、江戸時代には槍の柄の材料としても使われた。

宮城県の角田市に標高二三八メートルの斗蔵山という山がある。この山の南斜面と東斜面にはみごとにウラジログシの森が広がっている。この森は、宮城県の自然環境保全地域に指定されていて、ここに生えているウラジログシの中には直径五〇センチメートルを超えるものも見られる。斗蔵山のウラジログシ林は、江戸時代から続く森で、もともとは仙台藩の槍の生産のためにつくられた森であった。槍の生産を確保するために、仙台藩はここを「留山」つまり禁伐林として、厳重に管理・保護してきたのである。特にウラジログシに対しては規制が厳しく、角田の領主石川家でさえ切れなかつたという。

現在は、森全体が保全されているが、ウラジログシだけを保護してはいるわけではない。この森の林床にはウラジログシの実生や稚樹が見られるが、(イ)、針葉樹のモミ、カヤ、常緑のカシの仲間のアカガシ、落葉樹のイヌブナなどほかの樹種もよく混じっている。江戸時代に人為的につくられたウラジログシ林でも、自然にまかせれば、その土地の気候にあった樹種が生えてきて、多様な森をつくっていく。

ウラジログシは常緑広葉樹としては比較的寒さに強く、気候的には暖温帯の内陸側、より冷温帯との境界に近いエリアに多い。こういったエリアの丘陵地では、ウラジログシだけが森をつくるのではなく、ほかの樹種と混じって森をつくる。

斗蔵山から約三〇キロメートル北に位置する仙台市の丘陵地にも自然の状態に近い植生を観察できる場所がある。それは、青葉山である。青葉山は、伊達政宗ゆかりの青葉城(仙台城)の本丸址から西に連なる丘陵にある。そしてその一角は、東北大学の植物園として保護・管理されていて、一般の人でも林内を歩くことができる。過去数百年間、むやみに人の手が加わることを制限していたため、かなり自然の状態が残っていると考えられている。

この森を歩いてみて目につくのは、タイプが異なる樹木が混在していることである。針葉樹であるモミ、落葉性の広葉樹であるコナラやイヌブナ、常緑性の広葉樹のカシ類(ウラジログシ、アカガシ、アラカシなど)といった、異なる性質の樹木が混じり合っている。ただし、青葉山のウラジログシは、斗蔵山に見られるような大木はなく、数もそれほど多くない。それは人によって育てられた歴史がある斗蔵山の森とは対照的だ。

東京の近郊でも、ウラジログシが多い山がある。高尾山である。東京都の西部にある高尾山は自然が豊かなことで知られているが、この高尾山でも青葉山に似たような景観が見られる。それは、常緑広葉樹のカシ類(ウラジログシ、アカガシなど)に、イヌブナ(落葉広葉樹)、モミ(常緑針葉樹)、といった異なるタイプの樹木が混在する森である。

斜面の方位や傾斜によって、彼らの分布に偏りもあるが、よく混じっている場所では、特に新緑の頃は、背の高い円錐形のモミ、濃い緑の常緑広葉樹、薄い緑の落葉広葉樹、の三者の組み合わせが、モザイク画のような美しさを見せる。その景観は、人の手が強く加わってきた雑木林(薪炭林)と、きわめて対照的である。そのような雑木林は、コナラなどの落葉広葉樹だけの単調な景観しか見せないからである。

(ウ)、青葉山に比べて高尾山のほうがカシ類の優占は著しく、特に南斜面では優勢で、冬でもうっそうと茂っている。ウラジログシは日陰に比較的強く、森の中でも稚樹が生き残り、森の中で優占しつつ、かつ安定して世代交代ができる極相種のひとつである。ただし、ほとんどの丘陵や低山では、人が薪炭を採るために、伐採を繰り返して、コナラやクヌギの森を維持してきたために、ウラジログシはほとんど見られない。高尾山にウラジログシやアカガシが多い最大の理由は、ここが薬王院の寺域で、自然が守られたためである。高尾山は非常に例外的で、希少な場所なのである。

高尾山などの比較的自然に近い森の様子から推定すると、もしも森に人の手が加わらなかつたならば、太平洋側の内陸の低山では、ウラジログシやイヌブナやモミが混交する森が多くなったのかもしれない。ただし、現実には、すでに縄文時代から森には人の手が加わってきたので、あくまで想像にすぎないのであるが。

(渡辺一夫『アジサイはなぜ葉にアルミ毒をためるのか 樹木19種の個性と生き残り戦略』による)

問1 傍線部 a j の漢字の読みを平仮名で書きなさい。

問2 空欄  を補う言葉としてふさわしいものを、次のうちから一つ選び、その番号を記しなさい。

- 1 融解      2 リマインド      3 凝縮      4 コーティング

問3 空欄（ア）（イ）（ウ）を補う言葉の組み合わせとしてふさわしいものを、次のうちから一つ選び、その番号を記しなさい。

- 1 ア しかるに      イ しかし      ウ つまり  
 2 ア しかるに      イ もつとも      ウ そのうえ  
 3 ア このため      イ その一方で      ウ ただし  
 4 ア このため      イ やはり      ウ したがって

問4 傍線部(1)「留山」のここでの意味の説明としてふさわしいものを、次のうちから一つ選び、その番号を記しなさい。

- 1 領主家が使用するための場所として、一般の武士や庶民の立ち入りが厳しく制限された森  
 2 目的に応じて木々を育成しており、むやみに伐採しないよう、厳重に管理保護された森  
 3 薪炭材などの資源を確保するために、伐採を一定期間禁じながら、輪番で利用していく森  
 4 神社や寺院に属し、信仰対象として伐採を禁じてきた結果、自然が維持されてきた森

問5 傍線部(2)「モザイク画のような美しさ」のここでの意味の説明としてふさわしいものを、次のうちから一つ選び、その番号を記しなさい。

- 1 似た色同士の樹木が茂りあうことで、全体が明瞭なグラデーションになり、絵画を彷彿とする状態  
 2 木々や葉の重なりによって一面全体が同化し、モチーフとなるべき樹木が覆い隠されている状態  
 3 一つ一つの要素は異なりながらも全体として調和し、捉えどころのない美しい美しさを生み出している状態  
 4 多様な種類の木々が入り混じることによって、絵画のような美しい模様が表現されている状態

問6 本文の内容と合致するものを、次のうちから一つ選び、その番号を記しなさい。

- 1 ウラジロガシには害虫や病原菌から人を守る作用があるため、仙台藩はこれを保護するため厳重に管理した。  
 2 青葉山と斗蔵山に対する人の介入は制限されたため、それぞれに生えるウラジロガシの特徴は共通している。  
 3 同じ宮城県にある山であっても、過去の人の介入方法によって、森における木々の特徴が異なることがうかがえる。  
 4 落葉広葉樹は薪炭の原料として有用であり、人為的につくられた雑木林にコナラが多いのもそのためである。

【二】 次の(1)～(5)の各問いに答えなさい。

(1) 次の四字熟語の空欄  に入る漢字二字を書きなさい。

一意  (ひとつのことに心を集中して他に心を向けないこと)

(2) 熟語の構成が他と異なるものを、次のうちから一つ選び、その番号を記しなさい。

- 1 曲線
- 2 風速
- 3 開閉
- 4 握力

(3) 次の表現の傍線部は誤っている。正しい漢字二字を書きなさい。

彼は馬耳冬封の態度で全く話を聞かなかった。

(4) 「画竜点睛」の意味としてふさわしいものを、次のうちから一つ選び、その番号を記しなさい。

- 1 物事のきわめて重要な部分を欠いている状態
- 2 全体を完成させるための最後の重要な仕上げ
- 3 苦痛や屈辱などを長い間ぐっと耐え忍ぶこと
- 4 経験した失敗を何度も繰り返してしまうこと

(5) 次の作家とその代表作の組み合わせとして正しいものを、次のうちから一つ選び、その番号を記しなさい。

- 1 坪内逍遙 『或る女』
- 2 谷崎潤一郎 『刺青』
- 3 太宰治 『羅生門』
- 4 芥川龍之介 『みだれ髪』

【三】 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

人間という頭でっかちな動物は、目の前の輪郭のはっきりした危機よりも、遠くの輪郭のぼやけた希望にすがりたくなる癖がある。だから、自分はきつとウイルスに感染しない、自分はそれによって死なない、職場や学校は閉鎖しない、あの国の致死率はこの国ではありえない、と多くの人たちが樂觀しがちである。私もまた、その傾向を持つ人間のひとりである。

甚大な危機に接して、ほぼすべての人びとが思考の限界に突き当たる。だから、<sup>(1)</sup> 樂觀主義に依りすぎり現実から逃避してしまおう——日本は感染者と死亡者が少ない。日本は医療が発達している。子どもや若い人はかかりにくい。一、二週間が拡大か制圧かの境目だ。二週間後が <sup>A</sup> 瀬戸際だ。三週間後が分水嶺だ。一年もあれば五輪開催は大丈夫だ。一〇〇人に四人の中には入らないだろう。そう思いたくなくても不思議ではない。希望はいつしか根拠のない確信と成り果てる。第一次世界大戦は一九一四年の夏に始まり一九一八年の秋まで続いたが、開戦時にドイツ皇帝ヴィルヘルム二世はクリスマスまでには終わると国民に約束した。第二次世界大戦では、日本の勝利に終わると大本営は国民に繰り返し語っていた。このような為政者の樂觀と空威張りを、マスコミが垂れ流し、政府に反対してきた人たちがさえ、かなりの割合で信じていたことは、歴史の冷酷な事実である。

ペストの <sup>a</sup> モウイ、三十年戦争、リスボンの大震災、ナポレオン戦争、アイルランドのジャガイモ飢饉、コレラやペストや結核の蔓延、第一次世界大戦、スペイン風邪、ウクライナ飢饉、第二次世界大戦、チェルノブイリ原発事故、東京電力の原発事故、毎年のように人びとを襲う台風、水害、地震。世界史は生命の危機であふれている。いずれにしても甚大な危機が到来したとき、現実の進行はいつも希望を冷酷に打ち砕いてきた。とりわけ大本営発表にならされてきた日本では、為政者たちが配信する安易な希望論や道徳論や精神論（撤退ではなく転進と表現するようなごまかしなど）が、人を酔わせて判断能力を鈍らせる安酒にすぎないことは、歴史的には常識である。その程度の希望なら抱かない方が安全とさえ言える。

想像力と言葉しか道具を持たない文系研究者は、新型コロナウイルスのワクチンも製造できないし、治療薬も開発できない。そんな職種の人間にできることは限られている。しかし小さくはない。たとえば、歴史研究者は、発見した史料を自分や出版社や国家にとって都合のよい解釈や大きな希望の物語に落とし込む心的傾向を捨てる能力を持っている。そうして、虚心坦懐に史料を読む技術を徹底的に叩き込まれてきた。その訓練は、過去に起こった類似の現象を参考にして、人間がすがりたくなる希望を冷徹に選別することを可能にするだろう。科学万能主義とも道徳主義ともム <sup>b</sup> エンだ。幸いにも私は環境史という人間と自然（とくに微生物）の関連を歴史的に考える分野にも足を突っ込んでいる。こうした作業で、現在の状況を生きる方針を探る、せめて手がかりくらいを得られたらと願う。

まず、現実を観察したい。

<sup>(3)</sup> 新型コロナウイルスは世界を分断している。日本の内部も。そもそも、日本だけ感染者が少ないという事実は、検査量の少なさに拠るところも多く、喜んでいられない。運悪く東京オリンピックを七月に実施したいと足掻いていた人たちが、日本社会に根拠のない樂觀主義をもたらしてきた。しかし、延期が決定するやいなや首都では感染者の数が急速に増えつつづけている。世界では高齢者や重病者以外の感染者も死者も増えてきている。さらにいえば、新型コロナウイルスは、人びとの健康のみならず、国家、家族、そして未来への信頼を打ち砕きつつある。すでにもう土台がぐらついていたものばかりであるが。

第一に、X。

人びとは、危機が迫ると最後の希望をリーダーに託し、リーダーの「<sup>B</sup> 鶴の一声」にすがろうとする。自分の思考を放棄して、知事なり、首相なり、リーダーに委任しようとする。

たしかに、もしも私たちが所属する組織のリーダーが、とくに国家のリーダーがこれまで構成員に情報を隠すことなく提示してきたならば、そのデータに基づいて構成員自身が行動を選ぶこともできよう。異論に対して <sup>c</sup> カンヨウなリーダーであれば、より創造的な解決策を提案することもできるだろう。データを改竄したり部下に改竄を指示したりせず、きちんと後世に残す文書を尊重し、歴史を重視する組織であれば、ひよっとして死ななくてもよかったはずの命を救えるかもしれない。自分の過ちを部下に押し付けて逃げ去るようなそんなリーダーが中枢にいない国であれば、ウイルスとの戦いの最前線に立っている人たちが、たとえば看護師や介護士や保育士や接客業の不安を最大限除去することもできよう。危機の状況にも臨機応変に記者の質問に対応し少数意見を <sup>d</sup> ダンアツしないリーダーを私たちが選んでいれば、納得して人びとは行動を起こせる。「人類の叡智」を磨くために、「有事」に全く役に立たない買物やアメリカから強制されるのではなく、研究教育予算に税金を費やすことを使命と考えてきた政府であれば、パンデミックに対して少なくともマイナスにはならない科学的政策を提言できるだろう。

ところが、残念ながら日本政府は、あるいはそれに類する海外の政府は、これまでの私たちが述べてきた無数の批判に耳

を閉ざしたまま、上記の条件を満たす努力をすべて怠ってきた。そんな政府に希望を抱くことで救われる可能性は、『週刊文春』の三月二六日号に掲載された「最後は下部のしつぽが切られる」「なんて世の中だ」という自死寸前の赤木俊夫さんの震える手で書かれた文字群によって、また現在の国会での政府中枢の驚くべき緩慢な言葉によっても、粉々に打ち砕かれている。この政権がまだ四五・五パーセントの支持率を得ているという驚異的な事実自体がさらに事態を悪くしている（共同通信社世論調査。二〇二〇年三月二八日配信）。

その上、「緊急事態宣言」を出し、基本的人権を制限する権能を、よりにもよって国会はこの内閣に与えてしまった。為政者が、国民の生命の保護という目的を超えて、自分の都合のよいようにこの手の宣言を利用した事例は世界史にあふれている。どれほどの愚鈍さを身につければ、この政府のもとで危機を迎えた事実を、楽観的に受け止めることができるだろうか。

第二に、Y。

国が頼りなければ、家庭に生死を決める重荷がのしかかってくる。家族ほど近くて頼れて安心できる存在はない。「濃厚接触」は免れないから運命共同体とさえいえる。しかし、在宅の仕事が難しい親は、小学生の子どもを家に置いていかななくてはならない。その不安と罪悪感と闘わなくてはならない。不況による解雇も増えている。遠くに住む老いた両親に手伝いに来てもらうにも、感染リスクに晒されながらの長旅は正直心配だ。結局、経済キ。パンも育児環境も改善しない。家庭が安全であるという保証もない。

そもそも、子どもにとって家庭は安全な存在だろうか。あるべきかどうかではない。そうなのかどうか、である。日本は、七人に一人の子どもが貧困状態にある国である。経済状況の差をここまで広げた政策のつけは、こういう危機の時代に回ってくる。私は、『給食の歴史』で、高度経済成長期でさえ給食で一日の重要な栄養をとって食いつないできた子どもたちが多数いたことを書いた。まさに、現在は、子どもたちの最後の生命線が絶たれているとさえいえるのだ。

たとえ、三食最低限のご飯が食べられている家庭でも、危険はまだ残っている。『クーリエ・ジャポン』（三月二九日配信）によると、「(クリストフ・カスターネル内相は)三月一七日の外出禁止令以降、家庭内暴力が増加した可能性があることを認めた。パリ警視庁管轄の地域では一週間で三二パーセント、憲兵管轄の地域では三六パーセントほど、家庭内暴力が増加したという」。これはすでに女性への家庭内暴力が社会現象となっていたフランスだけの問題ではない。日本でも、普段は長時間一緒に滞在しない家族の成員が同じ屋根の下で過ごすことで、なんとなく気まずい空気が流れている家は少なくないだろう。普段虐待を受けている子どもにとって、<sup>(4)</sup>家庭はますます逃げがたい牢獄となるだろう。子どもだけではない。配偶者、とくに夫の家庭内暴力を受けてきた妻には、外出が難しいこの現状は文字通り牢獄にほかならない。今後、感染したことで家族の成員が欠けることも十分に考えられる。

(藤原辰史「パンデミックを生きる指針―歴史研究のアプローチ」

(『コロナ後の世界を生きる―私たちの提言』所収)による／出題の都合上、一部中略した箇所がある)

問1 傍線部 a ｓ e のカタカナにあたる漢字を含むものを、各群のうちからそれぞれ一つ選び、その番号を記しなさい。

a モウイ

- 1 真夏のモウシヨに熱中症に気をつける。
- 2 祖父はモウマクの病気で手術を受けた。
- 3 選手はモウテンを突くプレーで逆転した。
- 4 空を飛ぶことができないかモウソウした。
- 5 体力のショウモウに気をつける。

b ムエン

- 1 新年を盛大なエンカイで祝った。
- 2 川のエンガン地域で撮影された。
- 3 銭湯のエントツが遠くに見える。
- 4 エンピツを用いてテストを受ける。
- 5 私と彼はケツエン関係にある。

c カン|ヨウ

- 1 その村の長年のカン|シュウは珍しい。
- 2 外国の通貨を日本円にカン|サンする。
- 3 旅先で豪華なリヨ|カンに泊まる。
- 4 帰宅後にカン|イに着替える。
- 5 役所からのカン|コクに従った。

d ダン|アツ

- 1 犯人をキュウ|ダンする。
- 2 校長先生がダン|ジョウに上がった。
- 3 物語はダイ|ダン|エンを迎えた。
- 4 運動場でダン|ジが元気に走っていた。
- 5 近所の人達とザツ|ダンを交わす。

e キバン|

- 1 古代のバン|ゾクの文化を学ぶ。
- 2 地域のジバン|の強度を調べる。
- 3 バン|コン化が社会問題になっている。
- 4 先生が書いたバン|シヨをノートに写す。
- 5 ピアノのバン|ソウを聴きながら歌う。

問2

傍線部(1)「楽観主義に依りすぎり現実から逃避してしまう」とあるが、この表現が示す意味とその結果としてふさわしいものを、次のうちから一つ選び、その番号を記しなさい。

- 1 危機の深刻さを正確に把握せず根拠の薄い希望に依存すると、問題の本質的な解決を先送りにし、結果として危機が長引いて悪化してしまう。
- 2 危機の現状を冷静に把握するだけでなく、前向きかつ楽観的な見通しを持って社会全体の士気を高めると、合理的かつ建設的に対処することができる。
- 3 具体的な根拠や事実に基づいて現状を詳細に分析し、リスクや課題を踏まえた上で対策ばかりを講じると、将来に希望を抱けず現実を直視することが苦しくなる。
- 4 現実の危機を過大に捉えすぎると、人は極度に悲観的な見方をするようになってしまい、そうした必要以上のストレスのもとでは、正常な判断が妨げられる。
- 5 人は問題に直面すると現実から目を背けがちだが、新型コロナウイルスのように即時の解決が難しい問題については、あえて楽観的に構えたほうがよい。

問3

傍線部 A「瀬戸際」、B「鶴の一声」の意味としてふさわしいものを、各群のうちから一つずつ選び、その番号を記しなさい。

A 「瀬戸際」

- 1 物事の結果が決まる直前の、非常に重要な局面や分かれ目のこと。
- 2 問題が起こるよりも前の、まだ余裕のある状態や準備期間のこと。
- 3 ある問題や難局を完全に乗り越えたあとの、安定した状態のこと。
- 4 物事がある途中で、一時的に停滞または頓挫している状態のこと。
- 5 大きな問題が顕在化してしまい、後にひけなくなった状況のこと。

B 「鶴の一声」

- 1 高貴な人物の発言や行為を、周囲が誇張して称賛すること。
- 2 集結した人物たちが皆同じ意見を表明し、同調しあうこと。
- 3 多くの人が意見を出し合い、ある事項について決定すること。
- 4 ある特定の人物の意見により、周囲の否応なしに意思決定すること。
- 5 根拠の乏しい主張に依拠した、実効性に欠ける指示を行うこと。

問4 傍線部(2)「世界大戦」とあるが、本文中でこの例が示す意味としてふさわしいものを、次のうちから一つ選び、その番号を記しなさい。

- 1 過去の戦争の教訓は、現在に応用できないこと。
- 2 政府や為政者の判断には、常に根拠があること。
- 3 歴史において、危機に対する希望的観測が繰り返されてきたこと。
- 4 戦争は、実際には予測よりも短期間で終わることが多いこと。

問5 傍線部(3)「新型コロナウイルスは世界を分断している。日本の内部も。」とあるが、この「分断」が意味する状態としてふさわしいものを、次のうちから一つ選び、その番号を記しなさい。

- 1 感染の拡大や情報の偏りにより社会の対立や分裂が深まり、人々の連帯感が失われている状態。
- 2 各国が独自に感染防止を進めた結果として生じた、国際的な調和が失われてしまっている状態。
- 3 新型コロナウイルスの感染拡大を防ぐために、人々が思うように活動できなくなっている状態。
- 4 国際的な隔離政策が成功をおさめ、地域ごとに安全が確保されて感染拡大が防がれている状態。
- 5 感染を防ぐために人と人の間に物理的な距離が生じ、社会における温かみが失われている状態。

問6 空欄 X・Y を補う言葉としてふさわしいものを、各群のうちから一つずつ選び、その番号を記しなさい。

X	Y
1	1
2	2
3	3
4	4
5	5

問7 傍線部(4)「家庭はますます逃げがたい牢獄となるだろう」とあるが、この表現が示す意味としてふさわしいものを、次のうちから一つ選び、その番号を記しなさい。

- 1 本来の家庭はウイルスから逃れられる空間のほずであるが、限られた場所とともに生活する家族との「濃厚接触」は避けられず、家庭においても危険は存在しているということ。
- 2 貧困に苦しむ子どもにとって学校は逃げ場の役割を果たしているため、感染を恐れて子どもを家庭に閉じ込めることは、かえって子どもへの飢餓状態を強めてしまうということ。
- 3 在宅勤務や休校により家族が長時間一緒に過ごす時間が増えたため、家庭内のコミュニケーションが活発になり、家庭の問題解決や家庭への支援も強化される傾向にあるということ。
- 4 外出の抑制によって家庭内暴力や虐待が深刻化し、家庭という本来子どもにとって安全であるべき場所が閉鎖的な空間と化してしまい、苦痛や恐怖が増大しているということ。
- 5 社会全体の支援体制や行政の窓口が拡充され、被害者が容易に外部に助けを求められるようになったため、家庭内での閉塞感や被害の深刻化は抑制されているということ。

問8 次は、本文の内容の一部を整理するために作成した「メモ」である。これについて空欄 甲・乙 を補うのにふさわしい言葉を、各群のうちから一つずつ選び、その番号を記しなさい。

〔メモ〕

①人間の危機に対する思考と態度

(1)現実逃避的態度：甚大な危機に際し、実態を直視せずに楽観主義に依存する傾向。

↓本文冒頭で「頭でっかちな動物」と表現している。

(2)歴史的態度：歴史における戦争・疫病・自然災害の事例が、安易な希望の危険性を示す。

↓甲といった、多様な事例を挙げている。

(3)科学的態度：文系研究者が史料を偏見なく分析し、感情的な希望論から距離を置く試み。

②国家と個人の対応の違い

↓国家のリーダーが透明性と異論容認の姿勢を保てば、構成員は自律的かつ創造的に行動可能。

↓しかし、為政者が情報改竄や責任回避に走れば、乙といった問題が浮上する。

〈甲の選択肢〉

- 1 ペスト、スペイン風邪、チェルノブイリ原発事故などの歴史的災厄
- 2 政府やマスコミが発信した楽観的希望論や精神論的なごまかし
- 3 データ改竄かいざんをしない理想的なリーダーや、安定したコミュニティ
- 4 楽観的防衛意識と感染拡大の相互作用や、感染リスクに関する研究

〈乙の選択肢〉

- 1 歴史的態度を重視するあまり、現代の問題に即した適切な行動がとれなくなってしまう
- 2 危機的状况において適切な行動がとれないことで、ときには人命が失われてしまう
- 3 科学万能主義や道徳主義から逸脱するあまり、人びとは適切に歴史を認識できなくなってしまう
- 4 いずれ誰も国の統治を行いたがらなくなり、国内で大きな政治的混乱が発生してしまう

問9 次は本文を読んだ五人の生徒が語り合ったものである。本文の内容と合致しない意見を一つ選び、その番号を記しなさい。

- 1 Aさん——筆者は、人間は目の前にあるはっきりした危機よりも、遠くてぼんやりした希望にすがりたくなる心理傾向があると述べているね。だから多くの人が感染拡大に対し楽観的になりやすかったんだ。
- 2 Bさん——本文では、為政者が自らの責任を回避するために楽観的な情報や美しい言葉を流布したことが指摘されていたよ。それらが人々の正しい判断を妨げてきたことは歴史的にみても繰り返されてきたようだね。
- 3 Cさん——たとえば歴史学の研究を行う人はワクチンや治療薬の開発に関わることはできないから、科学的な見方をもとに考えれば、現代において文系研究者の重要性は低いといえるんじゃないかな。
- 4 Dさん——歴史的にみても、楽観主義はしばしば根拠の薄い確信に変わってしまうことがあるんだね。筆者はこれについて過去のできごとの例を引用していたから、その危険性がよく理解できたよ。
- 5 Eさん——筆者が述べている新型コロナウイルスの事例は、単に感染症の問題ではなく、国家のリーダーシップや経済格差、家庭内暴力など、あらゆる問題に繋がるテーマだといえるね。

設問は以上です。